



発行 KOA 森林塾 (事務局)  
0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

### 第9回森林塾報告 テーマ「林道設計」 『僕の後ろに道が出来る』

週間天気予報の雨が一日早まって金曜日にあがり、森林塾の土曜日はいつものように良い天気でした。ここの十日ほどは最低気温も十七、八度まで下がり、すっかり秋めいてきた信州ですが、やはり午後のトンガでの歩道開設は大汗をかく作業でした。一時間弱の時間で一

人十メートル足らず、全員で二百五十メートル程度の仕事でしたが、出来た歩道を歩いて帰る満足感を味わえました。来し方を振り返れば自分達が作った道。山の風景が身近なものに感じられました。今の時代、チェーンソーなどの道具を担いで一時間歩いて現場へ、というようなまだ

るっこい事はやっていられます。でもわが国の林道密度はヘクター当たりせいぜい六、七メートルで、これも山の手入れが停滞する一因となっていて、これではますます山から足が遠のいてしまいます。立派な規格のものでなくてもかまいません。取りあえず、車で現場近くまでいける作業道はそこそこの密度で欲しいものです。



「綺麗」に手入れされた信大演習林のヒノキ



「お父さん、ちゃんと覚えている？」と息子が見守る

に、同じ所をたびたび歩いてると自然と道になる、というのが道の起源かもしれない。しかし一度足が遠のいて、ほったらかしてしまつた山は、昔は使われたであろう杉道も、灌木が生え、笹が生えてすっかり分からなくなつてしまつていくはずだ。もう一度、歩ける道を作ってみましょう。百メートルや二百メートルの歩道なら一人、二人で何とか作る自信が今日、できました。山の手入



クマザサの根との格闘。大汗の出る作業だ

#### 今回の内容

#### 第9回 9月1日(土) 林道設計

8時30分 KOAパインパーク集合。あいさつの後、車に分乗。伊那市の東山、信州大学手良沢山演習林近くの野底(のそこ)区有林へ  
9時15分 演習林の小屋前で島崎先生からの説明。  
手良沢山演習林は昭和三十年代末に等価交換で手に



百パーセント勾配に立つ片岡さん

入れたとのこと。ヒノキの宝庫で一年に一ヘクターの木を切つても全部切るのに百年はかかるそつだ。  
林道は大回りしながら林内をまんべんなくカバーするように。始点と終点で百メートルの高低差があるなら千メートルの道を付ける。これなら勾配は十パーセント。人間が楽に歩ける勾配は十二パーセント位  
9時50分 班分け。現場に向かう。まむしに気を付けての注意あり  
10時20分 三班四班は険しい道を上り、上部の現場へ。インストラ後藤、川島により林道になる部分のブッシュがすでに刈つてあった。いよいよ、測量開始。今回は十メートルおきに五ヶ所の測定ポイント。六月の測量製図以来のコンパスを使うが、ちよっぴり忘れていた。行きに斜距離、斜度、方位を計り、帰りに測定の左右二メートルで横断をとる  
12時 信大の小屋の演習室をお借りして、製図を開始。平面図、横断面、縦断面、それぞれの図面を書く。島崎先生から補正の仕方の説明  
12時40分 製図が済ん



笠箆で横断を測る山浦さん



2本のボールのうち1本は藤野さんです。

で、やっと昼食  
1時40分 それぞれトンガを持って現場へ。現場登り口で、島崎先生が歩道の作り方説明。ササの根をまずトンガで切り、削った土を盛って平面を作る。注意することは土が流れないように。今回



ササや灌木を刈って

は人が通れるくらい幅五十一センチの道幅。ササの根が頑固で先生の手つきのように簡単に行かない

2時30分 たつぷりと汗を流して、二百メートル以上の立派な歩道が出来る。山を下りるときはできあ

がったばかりの歩道を通って。なんと歩きやすいことか。感動である  
2時50分 信州大学演習林内の一九六十年に植林されたヒノキ林を見学。ぱつと見て出た言葉が「綺麗」でした。続いて沢の反対側にあるカラマツ林へ。ここは六十四年に植林され、八十五年に保残木マーク法で間



「お姫様でも通れる道」(保科先生)が出来た

伐。ちょうど手が回るほど成長していて、直径が四センチほどになっている。

3時30分 現地で解散

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、中村さん、藤野さん、松ノ元さん、桃澤さん、森さん、夫妻と麟太郎くん、山浦さん、渡辺さん、池田さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん、藤本さん

講師/保科先生、島崎先生、スタッフ/椎原、平林、川島、後藤、野口、宮崎、坂野、此村、坪木、早川

次回以降の予定

第10回 9月15日(土)

林業先進地の見学

(根羽村)

8時30分 KOAパイン



縦断での補正を平面図に移します

第11回 10月6日(土) 枝打ち、刃物の手入れ

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。午前中はロープのアイ加工とぶり縄作り、そして木登りの練習。午後は近くのヒノキ林での枝打ちと

刃物砥ぎをする予定です。作業環境が変わる。歩道があるだけでも仕事現場へ行く苦労が減る。これは労働年齢をも引き伸ばすのである。道は林業活動を支えてくれる重要なアイテム。植林時に、将来の伐出計画をたて、それに見合った道を作ってしまうか、少なくとも歩道を開設してしまえば、その後の育

パークに集合(または10時30分根羽村役場)遅れないでね。  
根羽村は長野県最南端、愛知県に接し、県内では有数の林業地です。一九七七年から島崎先生が指導し、スギの大径材生産を目指しています。マイクロバスに乗って、先生が最初に保残木マーク法を試みられた浅間神社林等をまわり、見学をする予定です。

刃物砥ぎをする予定です。  
第12回 10月20日(土) 市場見学を予定しています

ワンポイントレッスン 「道ができる」として変わります

森への興味が出てくる歩道があるだけで、山の中へ入ることが出来るようになり、「なんだこの手入れのさ」は下草刈りをした方がいいとか「この森は気持ちの良い森だ」とかプラスもマイナスも森へ入ることで何かを感じる事が出来るようになる。今まで無関心だった人たちが山の中へ連れていくことができる。



森の中の演習室。環境抜群

林作業や間伐時の作業がしやすいのはもちろんですが、今からでも遅くはない、森の中へ歩道を。その歩道はまさしく森への水先案内をしてくれるものになるはず



はないでしょうか。また、道を基準にして、林内を小さく山割りすることが出来る。経営が変わる  
主伐による収穫までに、数回の間伐が必要で、本数にすれば間伐木の方が大多数である。それだけの回数山で仕事をしなければ、主伐時の利潤はあり得ない。また、もし間伐木で収益が上がるようになれば...  
作業環境が向上することで収益があがるのは確かである。  
歩道でもあるとないとは随分違う。幹線は、緩やかな勾配で大きく林内を巡り、支線を付けることによって、林内にくまなく行けるようになる。道は林業活動を支えてくれる重要なアイテム。植林時に、将来の伐出計画をたて、それに見合った道を作ってしまうか、少なくとも歩道を開設してしまえば、その後の育





特にツバキ・サザンカのあるお宅では要注意。これらに付くチャドクガの幼虫の毛虫の毛に触れると大変かゆくするので。今のこの両腕のかゆみは、この毛によって起きているのです。ひどい症状の人になると全身にジンマシンができるくらいです。一軒をどうにか終え、やれやれと思うのも束の間、この近辺のお宅には、ツバキ・サザンカは一本くらいはあるもので、次の家に移っても運が悪いと、またやられてしまいます。でも仕事ですから、やらねばなりません。毛虫の付いている葉だけを先に切り落とせば万全と思いきや、この毛はとてもしつこくて、ふわふわと飛んで、いつの間にか体のどこかがかゆくなっています。水を事前に掛ける方法もあるのですが、仕事から急いだりしていると、つい不注意となつてかゆくなつてしまいます。人によっては二三日かゆいという方も

います。私は毎年幾度となくやられているせいか、一日もすれば収まります。ところが、それで安心してはいけません。この毛はどこまでもしつこくて、かゆくなくなつた時の服を他のものと一緒に洗濯しようものなら、その他の服に移つてしまひ、着ただけでかゆくなくなつてしまいますから、たちが悪いのです。

他にも、イラガの幼虫など、刺されると激しい痛みを感じる毛虫や、スズメバチのように、場合によっては、人の命をも奪つ大変危険な虫もいます。とにかく、この近辺の手入れでの被害、その頻度の高さでは、このチャドクガが一番のようです。

ところで、木の手入れ作業として枯れ枝などを丁寧に取去つたりしていますが、場合によるのですが、その木が「喜んでる」と感じる時があります。ただの思い過ごしかもしれませんが...

先日、森林塾を受けた後、寝不足からか頭痛がしてきましたので、一晩、島崎先生の山小屋に泊めさせていただきました。その折、備付けのテレビで放映されたビデオを見ていたところ、同じような事を、ある塾生

の方が言われている場面がありました。それは、森の手入れ方法を教わり、間伐や下草刈りなどをすると、森が喜んでるように感じると。それです。ますますこの仕事にはまり込んでしまったと。

私は、一本の木に対して感じていましたが、森の手入れをする、森自体に対する感情が生まれるのでしょうか。塾を受けさせていただいている現在、とても興味深いお話でした。

また、島崎先生のお話として、森の木に「そろそろ人間の為になつてくれるか」と聞かれたり、伐採をする時は、その木にお礼を言つて切るとの事。その事を聞いて、私はある本に載つていた事を思い出しました。それは、とある所に、野菜をとてもりっぱに作る集団があり、その代表の人が言うには、作物を愛情を込めて作つていたところ、作物の方から作り方を伝えてきたそうで、その内容がとても理にかなつていたので、そのように育てたところ、とても美味しくりっぱな物が収穫できたのだそうです。また、収穫時作物は、育ててくれた方の為に、美味しくりっぱになるのだとも伝えてきたそうです。嘘のような話ですが、何か島崎先生のお話と同意するようで、私もまた、そのように木との会話ができればと

思ったのでした。

宮沢賢治の作品の『狼森と笹森、盗森』に、新天地を求めめる百姓が、いざ住もうと決めた場所の森に対し、畑を作つたり、木をもらつたり、家を建てたりする事を、一つ一つその森に請うて、了解を得たうえで、その作業を行う場面があります。私には、これが本来の森・自然に対する対応の仕方のような気がしてなりません。

また、ビデオには、すつくと林立する木々の保科先生の森も映っていました。是非その森を見せていただきたいと思ひますし、苦労話も、無いといわれればそれまでですが、何かありましたら、是非お伺いしたいものです。

森林塾、毎回とても楽しみにしてあります。KOAのスタッフ・イントロの方々、準備は大変でしょうが、今後ともよろしく願ひします。

「コラム」

すっかり秋らしくなつた伊那谷では、赤く色づき始めたりんごや大きくなつた栗のいが見られ、まさに味覚の秋を目で感じる毎日です。

スーパーの売り場には信州産と名乗る桃やぶどうが並び、愛知では夏の果物だったのに...と気候の違いを改めて感じさせられます。(実家のぶどうは今年は28日で終わつ

てしまったそうで二度目は間に合いませんでした。残念。乞う来年)そろそろ朝晩は半袖・短パンでは寒く窓を閉めるか長袖を出すかと、まだ九月になつたばかりなのに、またあの冬が来るんだなあ、と昨年の大雪が頭に浮かんでしまいました。

さて私事ですが、昨年の九月一日、伊那市役所へ転入届を出しました。祝一周年です。右も左もわからない中、諸々の手続きの為あちこち行き、私なりに感じた伊那らしさ。まずは市役所や警察の窓口がとても親切なこと。それから銀行や郵便局に順番待ちの番号札がないこと。どちらも伊那だからという訳ではなく、おそらく人口の少なさ(都会に比べ)に起因するのだらうけど、八年半の都会生活の後ではとても新鮮なことでした。

その後、知らされる伊那市の実態? 午後六時(冬場は五時)に流れる音楽。いまだ何の曲か知りません。突然、校内放送のお知らせ音の後流れる市からのお知らせ。朝昼夜問わず、突如鳴り響くサイレン・消防署から火災の発生と消防団の出勤要請の連絡。いずれも市内の各地に設置されたスピーカーから聞かされるわけですが、家から見える所に2機もスピーカーがあるのに実に賑やかです。

深夜ぐっすり眠つていてもには必ず起こされます。(そうでないと意味ないのですが)と、原稿を書いている今、市からのお知らせ。明朝六時半と七時に防災訓練のサイレンが鳴るって、そう言えば去年もこの放送聞いたな。

「テッカマン」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994

E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375 (開催日)  
H.P. http://www.koanet.co.jp

「おわりに」

「夏が行つてしまつ、やろうとして出来なかつたことがたくさんあるのに」と感傷に浸る年はとうに過ぎましたが、それでも夏の終わりは何か忘れ物をしたような気分になられます。

さて秋。自分の山が無くても一雨降ると落ち着かない季節です。今年の森林塾はきのこ取りが設定してありません。ここ二、三年雑きのこがまったく不作で行つてもまとも採れなかつたからです。時季の設定も難しいし。例年ですと十月初め頃には色々でてるはずですので、もしあつたら6日のお昼はきのこの鍋でも作りましょう。